

2.火山の概況（平成20年1月25日～平成20年1月31日）

口永良部島は、25日に噴火予報（平常）：警報解除を発表し、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）からレベル1（平常）に引き下げた。

31日現在の火口周辺警報、噴火警報及び噴火予報の発表状況は以下のとおりである。



図1 火口周辺警報及び噴火警報発表中の火山

火口周辺警報

噴火警戒レベル2、火口周辺規制 : 桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
火口周辺危険 : 三宅島、硫黄島

噴火警報

周辺海域警戒 : 福徳岡ノ場

噴火予報

噴火警戒レベル1、平常 : 樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢、新燃岳）、口永良部島
平常 : 上記以外の火山

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入している（現在、噴火警戒レベルを導入している火山は16火山である）。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

雌阿寒岳 [噴火予報（平常）]

火山性地震は、依然やや多い状態が続いているが、2006年3月のごく小規模な噴火に先行した活動に比べると、地震の振幅は小さく、火山性微動も観測されていない。また、噴煙の状況や地殻変動にも変化はない。

現在のところ、雌阿寒岳では、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。ただし、山頂火口内では引き続き噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内等（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）では火山灰噴出等に警戒が必要である。

雌阿寒岳は噴火予報（平常）が継続している。

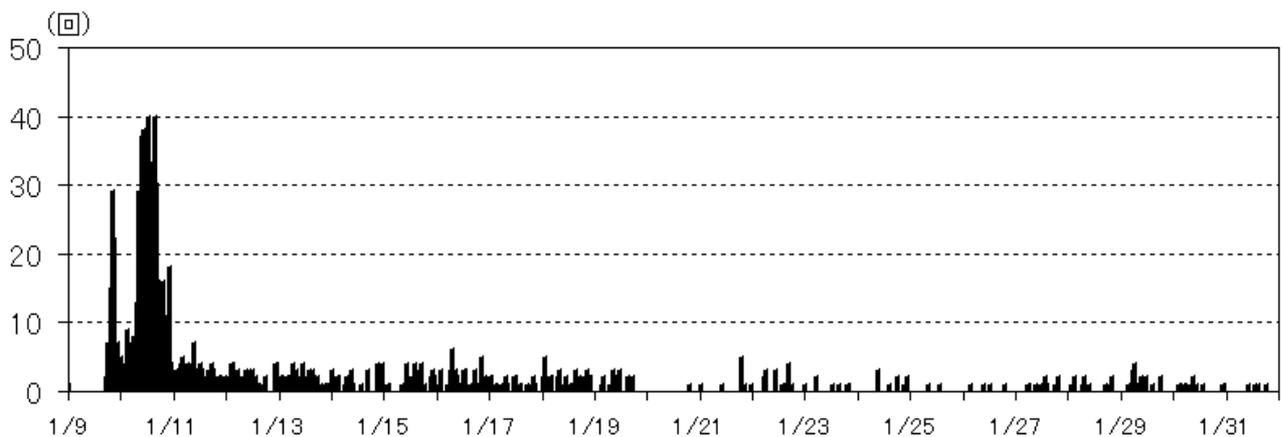


図2 雌阿寒岳 火山性地震の特別回数（2008年1月9日～31日）

三宅島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

噴煙高度は火口縁上200～300mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

30日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,800～2,500トン（前回8日、1,400～2,400トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。雨による泥流にも注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの現在も継続している。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要である。

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）]

海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

阿蘇山^{あそさん} [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

孤立型微動は2007年8月頃より多い状態で経過しており、1月29日以降はさらに増加し一日あたり300回を超える状態となっているが、中岳第一火口の湯だまりの湯量や表面温度に変化はなく、土砂噴出も観測されていない。また地震などのその他の観測データにも変化は認められない。

阿蘇山では火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出が見られることから、火口内等（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）では火山灰噴出等に警戒が必要である。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要である。

阿蘇山は噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が継続している。

桜島^{さくらじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では今後も南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

薩摩硫黄島^{さつまいおうじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

口永良部島^{くちのえらぶじま}

[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）] 25日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から引き下げ

2007年9月頃から、火山性地震は減少し、それ以前にみられていた一時的な多発もなく、火山性微動も少ない状態が続いている。

口永良部島では新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなり、25日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）：警報解除を発表し、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）をレベル1（平常）に引き下げた。

新岳火口内では引き続き噴気や火山ガスの噴出が見られ、火口内等（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）では警戒が必要である。

諏訪之瀬島^{すわのせじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。